第15回建築BIM環境整備部会 資料4

確認申請用テンプレート

令和5年10月2日

テンプレート (=BIMの作業環境)

BIMでは、一つのモデルから様々なビューや集計表を作成するため、作成を始める前に細かい設定が必要となる。 細かい設定を案件ごとに行なったのでは、非常に労力が掛かってしまうが、多くのBIMソフトウェアでは、この設定 を「テンプレート」として事前に登録することが可能であり、毎回、設定を繰り返さなくても済むようになっている。

テンプレートの事前設定の例(※下記以外にも、色々な事前設定をしておくことが出来る。)

ビューに関する設定

:代表的なビューの事前作成、ビューの表示制御(詳細度や色など)の事前設定、ビュー格納の事前設定 (フォルダ構成や並び順)、集計表の事前準備・事前設定など。

注釈要素の準備

:線種、タグ、色塗など。今回は特に確認申請に係るものの事前設定。

オブジェクト準備

:代表的なオブジェクトを格納。(今回は確認申請程度の詳細度モデルを作るために必要となるもの。)

パラメータ項目の設定

:代表的なパラメータ項目の事前設定。(今回は確認申請程度の詳細度モデルを作るために必要となるもの。)

今回の取り組みと目的

「テンプレート」の整備は、BIMの専門的知識が必要になるため、大手企業では、BIM専門部署が社内「テンプレート」を用意することも多い。しかし、人的リソースが限られる中小企業では、「テンプレート」を一から整備することはかなり困難であり、BIM推進(=BIMを使いやすくする)にあたっての一つのハードルとなる。

今回、国内で流通する代表的なBIMソフトウェアの参考モデルと、参考モデルで使用しているテンプレート (※) を作成し公開することで、BIM導入が遅れている中小企業へのBIM普及の支援を図る。

大手企業にとっては、自社テンプレートを外部と連携するための検討にも役立つ。

(※)無理に1案にまとめるのではなく、用途や規模に応じた代表的な入力方法をバリエーションにしたも

の

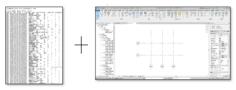
【補足1】

Revit については、参考テンプレートの公開と共に、共有パラメータGUIDの公開を行なう。

※同名のパラメータであっても、裏で動いているIDが異なると、異なるパラメータとして認識される。IDを揃えておけば、企業間でのよりス

ムーズなデータの受け渡しが可能となる。

なお、通常は裏で動いているものであり、共通のテンプレートを使用さえすれば、新たな設定をしなくても、IDは共通となる。



「共有パラメータ(GUID)Jテキストファイル + 参考テンプレート

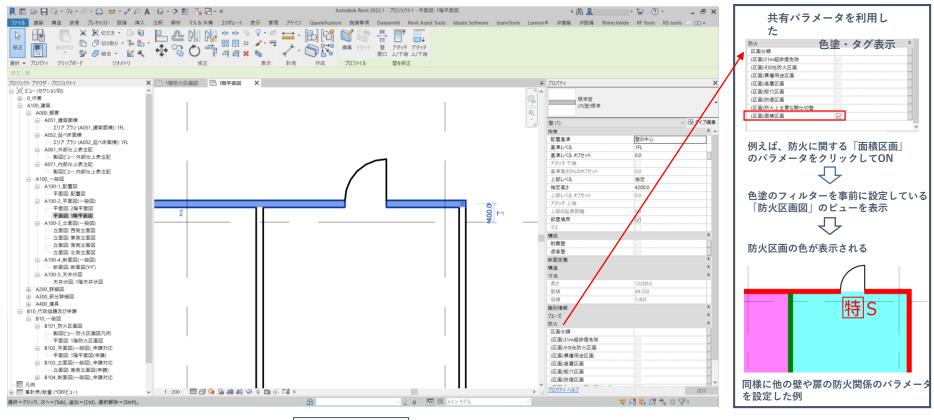
※上図は、建築設計三会「参考テンプレート」の例。今回も同様の考え方に基づ く。

【補足2】

Archicad については、参考テンプレートの公開と共に、 プロパティ・一覧表・ラベル等の設定ファイルの公開を行う。

※プロジェクトファイル毎に設定ファイルを読み込むと、プロパティの GUIDは再生成されるため、GUIDの共通化は不可能である。 GUIDが共通化されない環境においても正しい設定手順を行うことで、 企業間でのスムーズなデータ受け渡しが可能となる。 この手順について公開する。

参考テンプレートのイメージ(意匠)



参考テンプレート

※上図は、建築設計三会「参考テンプレート」の例。今回も同様の考え方に基づく。

参考テンプレートのイメージ(設備)

